

## 令和2年度第1回堺市総合教育会議 議事録

会 議 名 令和2年度第1回堺市総合教育会議  
開 催 日 令和2年10月19日（月）  
場 所 堺市役所本館3階 第1会議室  
出 席 者 永藤英機市長 中谷省三教育長  
河盛幹雄教育委員 大島幸恵教育委員 宮本功教育委員  
鈴木真由子教育委員 新谷奈津子教育委員

開会 午後3時00分

市長あいさつ

<永藤市長>

皆様本日はお集まりいただきましてありがとうございます。お忙しい中、感謝をいたします。また、平素から堺市の教育行政に携わっていただき、ご尽力をいただきまして心から感謝を申し上げます。

平成27年度に策定をいたしました堺市教育大綱の計画期間が今年度で終了いたしますことから、次期堺市教育大綱の策定に向けて骨子案を作成いたしました。教育大綱は総合教育会議で教育委員会の皆様と市長が協議・調整をして市長が策定することとされています。前回の策定からこの5年間で社会の状況は大きく、目まぐるしく変わっております。また、今年に入ってから新型コロナウイルス感染症という新たな問題も起こっております。世界的に大きな影響を与えておりますし、本市におきましても私たちの生活、働き方にも大きな影響を与えております。教育分野でも対応が求められることが多く発生をしております。そして、新型コロナウイルス感染症だけではなく、子どもたちを取り巻く環境の変化ということも新たな課題として認識されることが多くあります。このような中で皆様からこの間、昨年度の総合教育会議も含めまして、いただいたご意見を踏まえながら本市として、市長として教育行政にどのような想いで携わっていくのか。そして何を重点的に取り組んでいくのかということを教育大綱の骨子としてまとめております。

これから複数回にわたり総合教育会議において、皆様にご意見を頂戴したいと考えておりますが、まずはその方向性について皆様と認識の共有をさせていただきたいと思っております。闊達な協議が出来ればと思っておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。

## 教育長あいさつ

### <中谷教育長>

私のほうから教育委員会を代表させていただきまして、ごあいさつをさせていただきます。本日、次期教育大綱の策定に向け、総合教育会議を開いていただき誠にありがとうございます。現在教育委員会におきましても次期教育プランの策定に向け取り組んでいるところでございます。本年 2020 年は本当に変動・変革の年となっております。新型コロナウイルス感染症の発生、その対応、そして年始より準備を進めておりました GIGA スクール構想、これにつきましても前倒しにより一人一台端末が今年度からしっかりと取り組んでいかなければならないという状況になってございます。本当に学校教育の大きな変化・変革の年、節目であるというふうに考えてございます。そうした中で現在取り組んでいます次期教育プランについてもしっかりと記載をしていかなければならないというふうに考えています。そしてそうした中、本日の会議の意義というものは本当に重要なものであると考えてございます。私ども教育委員会との意見交換について市長からご意見をいただくと共に、私どものご意見を聞いていただきたいと思っておりますのでよろしくお願いします。

## 案件 次期堺市教育大綱骨子（案）について

### <事務局>

それでは本日の案件に入ります。

資料 1 をご覧ください。

教育大綱と教育振興基本計画、いわゆる教育プランの法的位置づけについて、法の抜粋により整理しています。本市では平成 27 年度に、平成 28 年度から令和 2 年度までの 5 年間を計画期間とする「堺市教育大綱」を策定しております。また、教育振興基本計画としては、「第 2 期未来をつくる堺教育プラン」を教育委員会が策定しており、同じく今年度末で計画期間が満了します。そのため、現在、教育委員会におかれまして「（仮称）第 3 期未来をつくる堺教育プラン」の策定作業を進められているところです。

それでは、次期堺市教育大綱骨子（案）について、簡単に説明させていただきます。

資料 2 をご覧ください。

まず「策定にあたって」として、○の 1 つ目に教育大綱を策定する目的を、○の 2 つ目に教育大綱を策定する上での基本となる 4 つの考え方を記載しております。

次期堺市教育大綱は、市長として教育行政に臨む姿勢を示すものとして策定します。そして、次期堺市教育大綱を策定する上では、「自立し、これからの時代を生き抜くための可能性を伸ばす」、「自分を大切にし、相手を思いやる」、「時代の流れに対応する教育の実践」、「ICT を全方位でフル活用する」という 4 つの基本となる考え方のもとに策定し、教育委員会とともに取組を推進します。

次に、基本理念ですが、教育大綱としての基本理念として、「未来を切り拓き、個々の幸せを実現する堺の教育」としています。

最後に、重要方針です。骨子案には記載しておりませんが、次期堺市教育大綱の計画期間は5年間を予定しています。これからの5年間において、特に力を入れていくことを念頭に、重要方針として3つに整理しております。「Ⅰ. 堺の歴史文化を受け継ぎ、広い視野を身につけ、自ら未来を切り拓く」。「Ⅱ. 自分を大切にし、違いを認め合い、互いに成長する」。

「Ⅲ. 児童生徒、教員の力を伸ばす」。各重要方針の内容等は、それぞれ○印で示しております。また○印の前に星をつけて、子どもたちに何を身につけてほしいのか、子どもたちのために大人が何をやるべきなのかを示しています。

骨子案についての事務局からの説明は以上です。

次に、市長より、次期堺市教育大綱骨子（案）について、お考えなどご発言をお願いします。

<永藤市長>

今回の次期堺市教育大綱の策定にあたりましては、私たち堺市として、どういう方向性で教育行政を行えばいいのかを検討して骨子案を作成しております。

そしてその上で、教育大綱を策定するにあたって何が必要かと考えた時に2つ、私として絞りました。1つは、教育委員会の皆さんが教育プランを現在検討されております。教育プランの中には細かな具体的な項目も記載されております。やはり教育行政を行う上では足りない部分があってはいけませんので、各施策を網羅したような形です。一方で、教育大綱は、やはり大綱ですので、大まかな要素であって、根底となるものですので、シンプルに伝わるものにしたいと考えております。特に注力すべき分野、これから必要となる分野について考えております。

もう1つは、やはり市長として携わるということは市長部局には様々な所管の局があります。教育委員会だけではなかなか実施が難しいこと、もしくは例えば民間企業の皆さんであったり、関係団体であったり、地域の皆さんと連携が必要なこと。そのようなことも市長部局が間に立ったり、共に行うことで子どもたちの教育にとって、もしくは学校の教職員の皆さんにとってさらに効果的な教育行政が行えるようになるということがあります。この点について、市長部局としてどういうことを行っていくかについても検討をいたしました。その上で先ほど話がありましたが、基本となる考え方、このような4点の「」の考え方に沿って、これは大雑把であり、内容については以下に記載してある通りですが、ということがこれから必要になるかを考えて検討いたしました。

まずは基本理念のところについての想いです。まずは教育というのは何のためにあるのかということを考えました。今、私たちが子どもの頃よりも社会環境は大きく変わっておりますし、日本の状況を見てもおそらく今までの時代よりも子どもたちは少し大変な時代を生きるのではないかと考えております。その子どもたちが大変な時代であってもそれぞれの生き方は自由ですが、それぞれの幸せを実現することが出来る、人生の中で幸せを実現す

るための教育、その土台というものを大人がしっかりと環境を整備してあげる必要があるのではないかと。社会に送り出していくための準備としての教育を行いたい。そのためには子どもたちが自ら、自分から、未来を切り拓く教育が必要なのではないかというところで、基本理念「未来を切り拓き、個々の幸せを実現する堺の教育」としております。その上で重要方針は3点にまとめております。1つは「Ⅰ.堺の歴史文化を受け継ぎ、広い視野を身につけ、自ら未来を切り拓く」。自分たちが暮らす場所、生まれた場所と暮らす場所が同じである可能性もありますし、私のように堺生まれではなくても堺で長く過ごす人もいます。自分たちが今暮らす場所がどういう所であるのか、そのことをよく知って、そしてこれからの未来に活かしていく、これは本当に重要なことだと思っています。特に堺というのは歴史上も、日本でも類稀な歴史を持っておりますし、オリジナリティにあふれた場所でもありますので、そのような堺の特性を活かしながら子どもたちにはさらに、世界に、そしていろんな分野に、広く目を向けてもらって可能性を広げてほしい。それが一番に書いてある内容です。

基礎的な学力というのは確実に身につけた上で、これからは様々な分野でも子どもたちに求められるもの、これからの大人に求められるものというものは多岐に渡りますので、その点についてもここでは英語、ICTを挙げておりますが、例えば今STEAMという言葉がありまして、科学技術分野であったり、芸術、リベラルアーツという言葉もあります。この辺りは、今は大学教育など、もう少し高等教育になるのですが、ただ将来的に必要なものというのは子どもの頃から徐々に身につける、そして知っておくことも必要だと思いますので、そのようなことも時代に対応しながら子どもたちには身につけていただきたいと思っております。

Ⅰの3つ目の○「自ら考え、創造し、表現する力」。こちらは前回の総合教育会議でもご意見をいただきました読解力、集中力というところ。そして子どもたちが自ら考えて、それを表現する力。なかなかこれまでの日本の教育では発信であったり、プレゼンテーション、ディベート、自分の意見をきちんと伝えながらアイデアを練り上げるということは少し慣れていなかったように思いますので、自分を表現する力を身につけてほしいと思っております。

私の重点的なものとして前回の総合教育会議でもお伝えしましたが、やはりスポーツです。この分野につきまして、健やかな健康、成長というものは必須だと思っております。今の子どもたちは、体は大きいけれど握力は弱いという新聞記事も出ておりました。堺市の子どもたちも運動能力というのは少し低下傾向にあるのではないかと思っております。それを今まで教育委員会として、色々と練ってこられたと思いますが、今は地域でも活躍されている方が、スポーツクラブもありますし、総合型地域スポーツクラブというものもありますので、様々なスポーツに関わる場所と連携をしながら深めていけたらと思っています。

2つ目の「Ⅱ.自分を大切にし、違いを認め合い、互いに成長する」です。こちらは教育委員の皆様からもよくご指摘いただいている自尊心の向上。やはり子どもたちが自分は出来るんだと、自分に自信を持つということは本当に大事だと思います。大人が子どもたちが頑

張っていると褒めてあげることも必要だと思いますし、子どもたちが自分のことをきちんと理解をし、そうすることで自分とは違う他者のことも気に掛けることが出来る。思いやりを持つことが出来るのではないかとこのところで自尊心の向上、そして多様性の理解を、子どもたちたちに身につけて欲しいことということで記載しております。

今増えておりますいじめ、児童虐待への対応、こちらも教育委員会と市長部局がしっかりと連携をしながらどうすれば減らすことができるのか、どうすれば対応出来るのかということを検討していきたい。

3 つ目の○は、すべての児童生徒の置かれた状況ということで大括りで書いております。実際の教育大綱には文章中でももう少し丁寧に記載をしたいと考えております。今子どもたちを取り巻く環境は非常に多岐に渡っておりますし、スマホの登場によって、今までは目に見える範囲で人間関係がありましたが、今は家に帰ってからもデジタルの中での人間関係ということもあります。その結果、不登校であったり、その中でのいじめ、学校に行きにくくなるということもあります。また、家庭の経済環境によって、貧困の連鎖、子どもの貧困ということもあります。様々な子どもが置かれた環境がありますが、すべての子どもたちが置かれた環境に関わらずしっかりと学びの機会を持つことが出来る。私たち大人が子どもたちにその機会を提供出来るようにしたいと考えています。

最後の3 つ目はすべて大人がやるべきことという括りにしてありますが、児童生徒と、そしてそれを支える教員の力を伸ばすためにどうすればいいのかということも3 つ記載しております。やはり教職員、先生方は、非常に多忙であると、あれもこれもしないといけないということがある中で子どもたちへの指導、教育について、熱意と指導力を持った先生方の育成が欠かせない。特に今堺市では若い先生方が多いので若い先生方が意欲を持って子どもたちの指導にあたることが出来る環境を作りたいと考えております。そのためには ICT を活用した校務の効率化であったり、研修内容や研修方法ということも様々な工夫が出来る余地があると考えておりますので、先生方が子どもたちの指導に向き合える環境を作っていきたいと考えております。

「児童生徒にとっての効果的な教育環境の構築」につきましては、これまでも学校規模の適正化であったり、学区の見直しという話も私からもさせていただきました。堺市内の学校でも規模が大きい学校、小さな学校があります。それによって子どもたちの学習環境も変わってきますので、ここはすぐに、1 年、2 年ということでは変えることは出来ないかもしれませんが、これから人口が増えていく地域、人口が減っていく地域、トータルで見るとこれからは日本の人口は減っていきますので、将来を見据えながら学校規模の適正化、子どもたちがしっかりと勉強出来る環境を大人が考えて用意をしていくことが必要と考えております。

一番最後、こちらは児童生徒というのは学校の中だけではなく、もちろん学校の中では教育カリキュラムであったり先生方が熱心に子どもたちの指導をしていただいておりますが、学校で過ごす時間というのは一日の中で限られた時間ですので、それ以外の時間でも地域であったり周りの大人、そして行政、関係する方たち、皆さんにご協力をいただきながら子

どもたちにとって望ましい教育環境を作っていくことが必要だと考えております。

これらの内容を方向性としてお示しをさせていただきました。本当に関係する方々というのは多岐に渡っていると思っております、行政ももちろん力を尽くしますし、様々な主体の皆様のお力添えをいただきながら子どもたちにとって素晴らしい堺の教育環境を作りながら、子どもたちが将来、未来を切り拓いて個々の幸せを実現出来る堺の教育を達成したいと考えておりますので、どうぞよろしくお願いいたします。私からは以上です。

#### <事務局>

ここからは骨子案について、意見交換をお願いいたします。

#### <中谷教育長>

ただ今、永藤市長から教育大綱の骨子案についてご説明いただきました。市長の想いとして、基本理念の「幸せ」という言葉に教育に求めるものが入っていると思います。子どもたちを伸ばすということ、堺の子どもたちにどう育ってほしいのかという想いが非常に伝わってきたと思います。その意味でこの大きな市全体としての教育大綱の策定でございますので、SDGs の「誰一人取り残さない」という視点が入っていると思っております。どういった子どもたちを育成していくか、先ほど私のほうから現在次期教育プランを策定していると申し上げました。そこでは、学校教育という範疇かもしれません。ただ、子どもたちを育てていくというのが市全体として取り組んでいかなければならないことでございますので、そういう意味で、スポーツの部分も学内だけではなくに学外でも子どもたちがどうスポーツに関われるかという点では、なかなか教育としては手を伸ばせないところでございますので、ここはしっかりと大綱のほうで記載をしていただきたいというふうに思います。

合わせて、「Ⅱ. 自分を大切にし、違いを認め合い、互いに成長する」の「全ての児童生徒の置かれた状況に係わらず、学びの機会を確保」ということについても、ここはどのような子どもたちであってもしっかりと学びの機会を確保しないといけないということで、公平性を求められる部分です。今学校現場で一人一台端末のタブレットを用意しています。まさにこの部分というのは、多様な、いろんな学習機会、学習方法を提供しようというところでもありますけども、公平性の観点から貧困の家庭の子どもたちにもしっかりとそういった ICT を活用した授業を行い、勉強が出来るということを提供しようとするものであるという認識です。ただこれは学校だけではなくに国も全体として、学外でも活用できるようにしっかりと取り組んでいかなければいけないというふうに考えてございます。そういう意味では今お示しいただいた各項目については、現在私どもが考えてございます教育プランとの大きな齟齬はないというふうに考えてございますので、今後細目についてはしっかりとまたご協議いただければというふうに思います。よろしくお願いいたします。

#### <新谷教育委員>

私も先ほどの市長の話で、市長の想いをお聞きしました。この骨子の中に重要方針があが

っておりますが、これが上段の「策定する上での基本となる考え方」が4つあってこれが市長の想いでもありますし、要となるところだと思うのですが、この「4つの基本となる考え方」がここに書かれている重要方針にどう落とし込まれたのかが明確でないように思います。この「4つの考え方」に含まれる重要な要素として、「これからの時代を生き抜くための力」を伸ばす、「個の尊重」、そして「効果的な教育環境の整備」が挙げられています。この3つがおおきな指針と考えるとクリアになるように思います。

「これからの時代を生き抜くための可能性を伸ばす」の中に、もちろん堺の歴史文化を学ぶということも含まれており、STEAM教育や「自ら考え創造し表現する力」、そしてスポーツに関する今後の方向すべて「これからの時代を生き抜くための力」に含まれるかと思います。そして「個の尊重」の中に、いじめ問題や学習困難者を含む個人差、ジェンダーの違いや外国籍の子どもたちなど、さまざまな個の尊重というのが含まれるかと思います。そして3番目の「効果的な学習環境の構築」に学区の規模の最適化、そして教員の時間を作るという課題が入っていくと、この考え方と方針がつながるのではないかと思います。特に、例えば2番目の「自分を大切に違いを認め」、その下の「自分自身と他者の個性や違いを理解し、自他ともに尊重できる心」というのがほとんど言い換えになってしまっていて、何が大きな目的なのか、その中に何を入れていくのかというところをもう少し整理してもいいのかなというふうに感じました。

#### <永藤市長>

一番上の基本となる考え方のところですね。まず、この教育大綱を考える上でどういうところがベースになるのかなというところで私の中で思い浮かべたのがこの鍵括弧の4つでした。最初は箇条書きにして、その手段であったり取組内容まで記載をしていたのですが、そうするとICTの活用というのは、ほぼ全項目に対して必要になることもありましたので、ベースとしてICTの全方位での活用であったり、これからの生き抜くための力、可能性を伸ばすというところも記載をして、その中で下のⅠ・Ⅱ・Ⅲというところの各項目に分けたという経緯があります。下のⅠ・Ⅱ・Ⅲに至るまでの私の考え方をお示しする意味でも、この前段階で出しましたので、それぞれの4つの鍵括弧がⅠ・Ⅱ・Ⅲの中の各項目で仕分けが出来るというところでは今は考えてはおりません。ただ今ご指摘いただいたⅠ・Ⅱ・Ⅲの項目の内容の整理はもう少し必要かなと考えております。

2つ目のところの、互いを認め合うというところは私の想いでもあるのですが、その下の項目と重複するところもありますので、やはり教育大綱というのは市の教育行政の姿勢が見えるものでもありますので、これをご覧になられた方が分かりやすく受け入れていただけるような書き方というのは気をつけて整理したいと考えています。

#### <鈴木教育委員>

非常に丁寧なご説明ありがとうございます。基本的な方向性には理解をいたしました。

これまで教育委員会の中でいろいろと話し合いをしてきましたが、プランとの齟齬はな

いかなと受け止めております。去年度の総括がまだ出来ていない状況で現状を分析するのはとても難しいと思うのですが、来年度以降の大綱であり、プランということであれば、やはり今年度が特異な状況であったとしてもコロナ禍における教育への影響がどうだったのかということも、総括までは難しいかもしれないと思っているのですが、学校で何が起きているのか、子どもたちにどのような影響が出てきているのか、それを次の大きな社会的にも影響のある状況、世界全体で共通しているような問題を解決しなければいけない状況に対して、どう取り組んでいくのかという、その視点はぜひ入れていただけたらいいかなと思っています。したがって、いろいろな市庁内での部局、それから市庁外の学校を取り巻くような社会全体を取り巻いている様々なところとの連携ということもお話もありましたのでぜひとも取り組んでいただきたいと思います。2022 年から 18 歳への民法改正が動き始めますからその中で何がどこまで義務教育でカバーしなければいけないのか、高校教育に何をつないでいかなければならないのかというのは教育全体で取り組む部分だと思うのですが、そこにぜひ行政との連携の中で消費者教育、SDGs で絡めて言えば消費者市民教育の部分と、どうつないでいくのかというのが見えやすくなっていると 18 歳に移行するまでの、あとカウントダウンにはなっていますが、そこまでの達成度、そしてそれが移行した後でどうしていくのかというところの分析にもつながっていくのではないかなというふうに思いました。それからすべてを実現させていこうと思いますと、先ほどの市長の説明であった学校規模や学区の見直し、そしてクラスサイズをどうするかというのはすごく大きな課題だろうと思っています。子どもたちの学びの環境であるとともに、教育の多忙化であるとか、教員の業務をどういう形で専門のライセンスを持っている人が何を担うのかといったところが住みわけが出来ていくのか、そうすると例えば外部からスポーツに関する人材を学校の中に入れていくですとか、その辺のつながりのポイントがよりクリアになっていくのかなというふうに感じました。以上です。

#### <永藤市長>

コロナ禍の対応については、この間、教育委員会の皆さん、そして教育委員会事務局の皆さんとも逐次協議をしながら進めておりました。私もこの間、複数の中学校、小学校を実際に訪れてコロナ対応であったり、子どもたちの過ごし方、先生方の環境についての意見交換をさせていただきました。これは教育大綱にも教育プランにも大きく関わることだと考えておりますので、この間の教育委員会、そして教育委員会事務局の皆さん、現場の対応、そして私たちが市長部局として見てきたことを一度きちんと整理をした中で、臨時的な対応、そしてこれからも求められる対応というのをこれからの 5 年間の大綱にもベースとして反映出来るようにしたいと考えています。

18 歳成人の件。こちらはまさにこれからの時代ということでご提言いただいたと思っています。コロナ禍でこれからの時代に必要な手段を使いこなすということもありますが、消費者教育、18 歳成人というのは責任が伴うのが成人ですから、そのための義務教育、成人になるまでの期間が 2 年間短縮されていますので、そこでどのような教育が求められるか

ということも教育委員会の皆さんと協議しながら取り組んでいきたいと思っています。

最後はクラスサイズです。私も大規模校と小規模校それぞれ複数校の視察をさせていただいて、小規模校は小規模校なりの課題があって、1クラスしかない子どもたちがずっと6年間同じクラスで過ごしてしまうと、先生方もなかなか校務も授業の役割分担も相対的な人数が少ないものですから苦勞されていると。これは学校規模とクラスサイズというものを両方とも考えながらバランスよく配置をしていくことが必要ではないかと思っています。1,200名の学校から100名以下の学校まで堺市内にはありますが、大き過ぎても小さ過ぎてもやはり何らかの問題が起これと。そして今国の方でも少人数学級をどうするかという話もあります。その議論の中で堺としても、どれくらいの規模で子どもたちが勉強がしやすくなって、先生方の負担も減る、子どもたちに向き合えるということを、これは中長期の話になるかもしれませんが、しっかりと地域の皆さんのご理解もいただきながら進めていきたいと思っています。

教科担任制の話も去年の総合教育会議でもお伝えさせていただきました。国の方でも動きがあるようですので、ぜひ、効果的な学習環境につながるように、社会的な変化と国の教育行政の変化を見据えながら大綱、そしてプランの方でも協調して反映していけたらと思っています。

#### <河盛教育委員>

市長の大綱の骨子に関する想いを語っていただきまして、実は私5年前に前の大綱の時に参加した一人なんです。まずは基本理念ですね、5年前の基本理念というのは「すべての堺っ子が尊重され、ゆめに挑戦できる教育」ということで、そういうテーマで作ったのです。今回は「未来を切り拓き、個々の幸せを実現する堺の教育」ということで、私の受けた大きな印象としてステップアップした基本理念だなと思います。未来を切り拓くということは、これは自分の力で切り拓かなければならないということで、自らそういうことが出来る力をつけさせることがポイントですね。それから個々の幸せの実現ということですが、幸せを実現させるためにはまず前提は夢を持って挑戦する、そしてその夢を実現して初めてその達成感で幸せが実現するわけなので、自分で努力したうえで夢を実現させて達成するという、そこはね頑張っていきましょうという、これは本当にステップアップした理念だと思います。幸せということでは、特に最近の日本人はですね、幸せを感じないというか、今年の3月20日に国連が発表した幸せな国ランキングでいいますと、北欧の国や、スイスとかが上位ですね。日本は62位ということを知っていて、だんだん順位が下がっているということで、これは日本人は豊か過ぎて幸せを感じない、特に若い人がそういう状態になっているのではないかと思うのですけども、もうひとつの大きな原因としましては、人生に対する目的とか目標とかそういうものを今の若い人は持っていないのではないかと、そうすると目標がないから達成するものがない、達成感が得られないから幸せを感じないということではないのか。これが一番今の若者が幸せを感じていない悪い原因ではないかなと思うのです。その辺を教育で子どもたちに生きる目的、目標そういう大きなものに向かうように、

毎月・毎週・毎日の非常に小さいながらも、目標を持って達成感を味わって幸せを感じてもらおう教育というのが私の希望するところではあります。

重要方針を3つ挙げられていると思いますけども、一番上の「堺の歴史文化を受け継ぎ、広い視野を身につけ、自ら未来を切り拓く」ということですが、市長の想いということで、世界に通用する子どもたちを教育で生み出したいということだと思っております。堺には歴史も技術・芸術もありそれを土台に、応用力、つまり、自ら考え表現する力を付ければ本当に世界に通用する子どもたちが誕生する。この可能性は堺という風土から生み出されると思います。

2つ目の「自分を大切にし、違いを認め合い、互いに成長する」この部分でございますけども、これは私なりに多様性という一つのキーワードでこれをまとめればすべてが理解できると思います。自尊心、自分の個性を大事にするという、それから他人を許容して尊重するという、これらは自分自身の多様性を認め、それを他人に対しても広げるということで、例えばいじめというのが次に出てきますけども、他人の多様性を認められないからいじめが起きるのではないかということになります。多様性を認めるのが一つのポイントであって、「すべての児童生徒の置かれた状況に係わらず、学びの機会を確保」するということも、学び方の多様性で、学校で授業を受けなくても、今でしたらリモートもあるし、フリースクールというのもありますね。この多様性というキーワードで、この2番目をまとめたら、ひとつ大きな展開になるのではないかと思います。

それから3番目の最後の「児童生徒、教員の力を伸ばす」という部分で言いますと、今教員が非常に雑用も多くて、本来の教師としての仕事が出来ないということで、これを専任教師制を導入するとか、外部の人の力を活用するとか、それから効果的な教育環境の構築のために学区等を定めるために、家庭・地域・行政が学校と力を合わせてやっていきたいと思いますので、まとめられると思います。市長の想いに全く同感でございますので、あと少し若干文章を変えるということでご検討いただきたいと思います。

#### <永藤市長>

私も実は「幸せ」を入れるかどうかというのは少し悩んだところがありまして、これは堺の教育だけというよりも、人間としての永遠のテーマではないかと思っています。複雑化した社会だからこそ子どもたちがそれぞれの幸せを見つけて欲しいというところでありまして、やはり自尊心にも結びついていると思いますが、各種アンケートを見ても、子どもたちは自分の国に対しても、自分のことに対してもなかなか自信が持てていないという状況があると思います。先ほどおっしゃっていただいたような子どもたちが小さな夢でもいいので持って、それを実現していく。その達成感が自尊心につながる。何か成功体験を教育の中で身につけてもらえるようなことがあれば、将来の自分が何が向いているかを考えることにもつながる。失敗も経験になりますので、失敗したら失敗したでいいと思いますが、今、次期基本計画も作っておりますので、ぜひ子どもたちが幸せを感じられるような、ステップアップをしていけるようなものにしたいと思います。

もう一つは、世界に通用する堺の子どもたちというところに答えていただきまして、まさにおっしゃる通りです。どうしても自分たちの暮らしている地域であったり、子どもの頃というのは、まずは家族、そして自分たちの住んでいる街というところがベースにあって、なかなか外の世界へは視野を向けにくいことがあります。一方で、堺の歴史を紐解きますと、国際貿易であったり、広く視野を外に向けてきたことが堺の発展の歴史でもありますので、ぜひ子どもたちには身につけてほしいと思っています。

一つエピソードをご紹介させていただきたいのですが、先日、今年からモデル実施をしているオンライン英会話の授業の見学に行きました。その中で中学生の子どもたちが思っていた以上に、活発に英語で会話をしていました。そしてアンケートを見たり、先生方からお話を聞きますと、「堺のことをもっと知りたくなった」というふうに言っていました。例えば、世界遺産になった百舌鳥・古市古墳群、仁徳天皇陵古墳、英語ではすごく難しいですよ。それでも子どもたちが外国人の先生と話す内容を、自分たちの郷土であったり、文化というのを伝えたいという気持ちがあったのだと思います。そこがやはり大事なところで、実施して良かったと思いました。今、英語の教育、ICTの教育というのを上辺だけ出来たとしても、あくまで手段に過ぎませんので、やはり根本がしっかりしていないと出来ない。そういう面では、この堺というところは、歴史であったり文化、伝統であったりと恵まれた環境にありますので、しっかりと自分たちのアイデンティティとして、堺のことを知って、それを世界に発信出来る。子どもたちすべてが世界に発信をするかどうかは分かりません。しかし、そのような基礎を身に付けておくということは、ずっと日本国内で過ごす方もいらっしゃるでしょうし、世界で勝負をするような方、仕事をする方もいるかもしれないですが、可能性というのはぜひ子どもたちに持ってほしいという想いで、まずは堺ということを、認識を子どもたちもしていただいて、可能性を伸ばしたいということで記載しています。

最後にもう一つは、学びの機会の確保のところでもご指摘いただきましたが、ICT環境、一人一台PCの環境というのは、これまで授業であったり学校環境でしか子どもたちに向き合うことが難しかった。それを学校環境以外でも出来る。その分先生方の負担であったり工夫のしどころというのはあるかと思いますが、その点でも大いに効果を発揮すると思っています。特に不登校の子どもたちは堺市内にもいます。不登校になってしまった子どもたちが、そのまま取り残されない、きっちりと今授業でどういうことが行われていて、また学校に行きたいと、私自身は無理にでも学校に戻すということが正解ではないと思っています。きちんと子どもたちが置かれた環境を理解しながら、子どもたちが自発的に行きたくなるような環境を作る。ずっと学校に通っていないと、なかなか行きにくくはなりますから、そこを今回の一人一台のPC等でリモートを活用しながら、子どもたちがまた学びたいと思った時にスムーズに学校に戻れるように、そういうことも出来るのではないかと考えておりますので、ここは教育委員会の皆さんとも、そして学校現場の先生方とも協力をしながら子どもたちにとってより良い環境を作れるように私自身も努力をしたいと考えています。以上です。

#### <大島教育委員>

私は教育委員として保護者代表という形でこちらに参加させていただいているんですが、市長の今のお話をお聞きすると本当に学校の現状をよく見ていただいていると思います。

例えば行事等でも、大規模校で出来ても、小規模校で出来ないことがあります。先ほど河盛委員もおっしゃいましたが、私も5年前、前回教育大綱策定の時もありまして、大きく変わったのはICTという言葉が多く出ている点です。5年前はここまでのことはなかったと思います。それから、今本当に市長が尽力いただいて、早い動きでGIGAスクール構想が進められていますが、それを活用するということが本当にこれからの時代の流れに対応する教育の実践に必要なだと思います。市長がおっしゃる「ICTを全方位でフル活用する」ことで、この2つはつながると思うんですね。小規模化のことにしても1クラスしかない学校があるのであればそれをICTを活用して横繋ぎで何か一緒にやるとかですね、そういうこともできるのではないかと思います。

コロナ禍で私たちの堺に伝統のある、連合音楽会とか連合運動会が中止になり、子どもたちもすごく残念だったんですね。そういったことも例えば連合音楽会もICTをうまく活用できるようになったら何か学校で横繋ぎで映したものを共有するとかそういった形でも出来るのではないかと。あとは先ほどの市長のお話の中でオンライン英会話で子どもたちが自分たちの堺のことをもっと伝えたいという話がありました。私は今、南区で主に活動していますが、南区の子どもたちは堺区の、堺の伝統文化のことをほとんど知らないことが多いです。それは、保護者の方も知らないことが多いです。先ほどの市長のお話の想いの中に、堺のことをよく知ることが大切だとお話がありましたが、重要方針の一番に掲げて「堺の歴史文化を受け継ぎ、広い視野を身につけ」というところなんです。堺には大浜の体育館が新しくされるということで、未来プロジェクトというのが動き出しています。大浜には隣に相撲場があるのですが、これも私は子どもの頃、知りませんでした。堺に生まれ育って50年過ぎますが、そういうのがあるというのは知らなかったです。大浜の相撲場は両国国技館と並ぶくらいきちんとした公式な相撲場だそうです。それが堺にあって誇れるものがあるのだということをもっともっと保護者として子どもたちに伝えていきたいです。

堺には長く続いている伝統的なことがたくさんあると思います。あとは本当に細かいことですが、「はとぶえ」という文芸雑誌がありまして、私が子どもの頃からありました。自ら創造して表現する力という文言がありますが、伝統があつてずっとつないでいるものをフル活用して子どもたちに自分が表現してプレゼンテーションする機会が、もっと活発になればいいと考えます。

ICTという、これがキーワードかなと思うのですが、「考え、創造し、表現する力を身につける」ためには、語彙力、読書が必要です。読書に関しては、図書館とかあると思うのですが、ICTを活用すれば堺には充実した原資があります。市長が教育大綱を策定するうえで、基本となる考え方に賛同します。それを実現するために堺が持っている貴重な資源や堺の文化をフル活用していった新しいものを取り入れていくということも大事ですし、イノベーションで新しくしていくことも大事です。それはこれからの子どもたちが今自分たちの前

にあるものをうまく活用して、私たち大人が手助けをして、情報を与えていけばいいと思います。本当に変化に迅速にスピーディーに対応していこうという市長の考え方には賛同し、これからが楽しみでもあります。

<永藤市長>

コロナ禍での様々な行事が中止になったということで私の所にも保護者の皆さんから何とかならないのかというメールが来ました。教育委員会事務局であったり、現場も大変苦慮しながらこの間運営をしてきたと思います。この後、コロナ禍での対応というのを協議しながら、振り返りたいのですが、例えば連合運動会であったり、体育大会、音楽会というものを、もしまた同じように新型コロナウイルス感染症が急速に拡大した時に何らかの形で実施出来ないかというのは、今回とはまた違うアプローチがあると思いますので、これまでの振り返りを踏まえながら、ウィズコロナというのはもうしばらく続くと思いますので、より適切な対応が出来るようにしっかりと検討したいと思います。そういう備えに関しても大綱であったり、プランにどこまで反映出来るかわかりませんが、ベースとしてはきっちりと持っておく必要があると思います。大人がきちんと心の準備をしておくことで、子どもたちに何かあった時でも安心して過ごしてもらえるような環境を用意していく必要があると思います。

もう一点、堺の伝統、文化のことをおっしゃっていただきました。私も小学校2年生から4年生までは泉北に住んでいまして、仁徳天皇陵古墳は遠足で行ったのですが、堺の環濠の歴史文化であったり、あまり学校で習った記憶がありません。逆に言うと堺区の学校の子どもたちが中区の土塔や、美原区の河内鑄物師のことを知ってるかといえば、今カリキュラムとしては習っているのですか。

<中谷教育長>

堺の歴史として教科書には入っています。

<永藤市長>

堺も、中世の堺というのは本当に小さなエリアだったのですが、そこから平成に至るまで、美原町との合併まで、様々な合併・編入を繰り返して大きくなっていますので、堺にこういう地域がある、特徴がある、歴史があるということをより広く知っていただくというのは多様性ということにもつながると思いますので、何らかの方法で私たちも広く発信していきたい。大人も知りませんので、学校現場でも、子どもたちからそういう話題を家庭内で出してもらったら、保護者もそれを知ることにつながるとと思いますので、ぜひ堺の特徴というのは知ってほしいと思います。

ICTを活用しての電子図書館の話もご提言いただきました。「不易流行」という言葉が非常に好きなのですが、昔の良いものを大事にしながら、そして今の新しいものを取り入れながら進化をしていこうというものです。まさにこのコロナ禍はそのような考え方が求めら

れているのではないか。教育もそうですし、私たち堺市民にとってもより良いものを、このコロナ禍だからこそ後ろ向きにならずに、前向きにチャレンジをして、この機会に子どもたちの教育環境に反映させていく。そのためにも、私も教育大綱を、どのような未来に向かって希望が持てるようになるかということを引き続き検討していきたいと思います。

#### <宮本教育委員>

この骨子の案をお示しいただいて、一人ひとりの幸せを実現するという考え方で取り組むことで、すべてにうまく回るのではないかと思います。私がお話ししたいことは2点あり、スポーツを中心に話しますが、まずは重要方針の中に入っている「健やかな成長を支える」というところで、体の健康と心の健康はつながっているということです。いじめの問題であっても、不登校の問題であっても、体が健康になっていくと心も健康になります。体を動かさずにずっと閉じこもっていると心も塞ぎがちになります。ICTがどんどん世の中で進んでいき、スマホや次世代のデバイスが出てくる中で、心と体の健康から一部逆行すること、例えば視力低下等がありますが、使用時間等うまくバランスをとっていくことが必要だということです。

もう一点はスポーツクラブのお話があったんですけども、やはり学校との連携、外部の協力をいただくという話はおそらく出てきます。学校の先生の働き方改革をしっかりと教育委員会として表明しながら、部活動の問題だったり、より子どもに対応していかなければならない場面では都合のいいように取られかねない非常に難しい問題でもありますし、今の若い教員の仕事に対する時間の使い方が昔とは違ってきているはずです。学校の現場と地域とのつながりの部分は、冒頭でもお話されてるのですが、教育委員会のことだけでは解決できない、非常に重要な問題で、密接にやっていかなければいけないところなのです。そこを避けては、次のステップに行きにくいところです。より子どもに向き合ってあげるようにするとすると、少人数学級にしてあげて、教員がより子どもたちを見えるような環境にしていき、一人当たりの時間を生み出していくところもICTを使うことによってそれがなされていくのではないかと。時間を作っていくのですけども、学校の中だけで解決できるところとそうでないところを見極め、戦略的に動かしていくことが重要です。スポーツでの取組がすごく分かりやすいところで、その次は文化の取組かと思います。部活動などで、子どもに対する対応、家庭に対する対応というところは学校の先生の力だけではクリアできない非常に難易度の高い案件がたくさんあります。

不登校であれ、心身の不調であれ、専門家の力が必要な場面があり、そこをこの大綱の中で触れいただくことで、堺市全体が子どもたちの教育のために動いていければすごく嬉しいなと思います。

例えばJ-GREEN堺だとか、スポーツの施設もたくさんある。そこを活かしていくにあたって、ソフトを我々が頑張っていくのですけど、例えば行政の部署がすごい良いことをやって、成功したとします。例えば何か良いシステムで経済がすごく活性化したとします。その時に担当の方々が最後に、では、これを堺の子どもたちにどうやって知ってもらおうか、という

話がいつも出てきたりするともっと良くなるなと思います。

そういうマインドがスポーツとか文化の部活動のどこかにうまく入ってきたらよいと思いますが、いずれにせよ市長の力を借りて、教育委員会単独でクリアできないこと、例えばコロナの件などですが、そういうところを手掛けていかねばならないと思います。

#### <永藤市長>

健やかな成長をというところで意図するところは体力メインで考えていたのですが、おっしゃる通りで、心の健康と体の健康のバランスが非常に大事だと思います。心の健康というところはⅡで書いてあるのですが、その辺りの整理も、もう一度検討をしてみたいと思います。

ICTの活用については先日一つ面白い動画を見たのですが、子どもがバク転をするという動画でした。なかなか普通はバク転は出来ないのですが、それをコンマで区切って、まずは初動動作がどうなのかというのを科学的に見て、それぞれによって動画を見せながら練習を重ねていくとバク転が出来るようになって。今までだと、見て覚えるとか、何回も練習してとなるのですが、こういう動画であったり、ICTを活用することでより効率的に、科学的に分析しながら身につけられるというのは、一つ大きな学びの改革なのかなと私もそれを見て思いました。ICTというのはゲームであったり、ドリルを解くだけではなくて、様々な運動に関しても活用出来るのではないかと思いますので、その辺りも色々な研究成果を踏まえながら活用できたらと思っています。

学校と外部との協力のところですが、本当にこれが最上段だと思っています。私も市長に就任してから1年と4か月強ほど経過しますが、教育委員会事務局はどうしても責任感が強く、自分たちの周りで解決するものだという認識があるのではないかなと思っています。私たちも協力をしながら進めていきたいので、そのためにどういうところが教育委員会で出来て、どういうところが市長部局で担うことが出来るかというところを連携しながら進めることで私たちが進めたい教育大綱と、具体的な施策である教育プランが機能するのではないかなと思っていますので、ここは積極的に投げかけていきたいと思っています。

今回の教育大綱の案は私の想いもありますが、市長公室が中心となって作成をしています。市長公室はそれぞれの部局と連携をする、橋渡しをするような部局です。今はそこが中心となって考えていますが、先ほどご提案いただいたように市長公室だけではなく、例えば健康に関するところであったり、文化・観光に関するところも、子どもたちにこういうことを教えたらいいのではないかと、こういうことを知ってもらったらより前へ進むのではないかと、ということを提案しながら、教育委員会の皆さんと話をし、総合教育会議でお話をしてフィードバックしていけたら、より層が厚くなるような気がします。普段から連携の意識というものが生まれると思いますし、どういうことが出来たら子どもたちの健やかな成長に結びつくのだろうかということにもつながると思います。色々な、今堺市が行っている事業であったり、これからの方向性についても、10年・20年を見据えますので、そうすると今の義務教育で学んでいる小学生・中学生が10年後になった時というのはすごく重要に

なります。各担当の部局、もちろん担当者が変わるかもしれませんが、連続性がありますので、その辺りも意識しながら教育大綱で教育委員会や各関連する民間の皆さんとの協力体制について、もう少し具体的に、想いも含めて記載をしたいと思います。

#### <宮本教育委員>

改めて思ったのですが、やっぱり教育をしていくところの重要性、尊さというところがあり、教育がすべての子どもたちに対して、すべての家庭に対してという大変さがあります。そこは絶対にぶれてはいけないところだと思うんですね。ぶれてはいけないところをしっかりと守っていただきながら、経済的なことだったり、スポーツは両方に入るかもしれませんがスポーツの面であったり、施設の面であったりと、教育委員会をリスペクトしていただきながら、協調していければ現場はうまく回っていくのではないかと思います。

#### <新谷教育委員>

全体として基本理念が未来志向だなと思っていて、現在の問題をどう解決するかというところも考えておく必要があるのかなと感じています。重要方針に挙げられていますが、「基本的な学力を確実に習得する」というところ、それから「いじめや児童虐待への対応」の2点がすぐに解決を図る必要があるところだと思います。そのためには、教員と児童生徒がより深く関わるようにしていくということが必要だと思います。この重要方針では、教員と児童それぞれがすべきこととはなっていますが、関わりという視点が欠けている感じがしました。ICTも含めて例えば、先生に声を出しては言いにくくてもメールとかメッセージだったら助けを求めることができることもあるように思います。教員の時間を作っていくと、少人数学級の実現もそこにつながると思います。教員と児童生徒の関わりを深くすることによって、危機にも対応しやすい、何かあった時にも先生が一人一人を見て対応をしていくことが出来る、コロナ禍のような状況にも対応しやすいと思います。そういった、教育の土台としての強さというのは関わる時間を増やしていくことが大事で、そういった現実の問題を踏まえた少し強いメッセージが入るといいなと思いました。

#### <永藤市長>

危機に対応するということはまさにそうで、現状を踏まえた中でより未来に向かって切り拓くというところで私も想いがありましたので、確かに見直しても未来志向が強いなと思います。ただ、やはり現在をしっかりと見据えて対応することは欠かせないと思います。今おっしゃられた教師と児童が深く関わること。これについてもICTの活用であったり、ICTを使わなくても出来るところがたくさんあると思います。その点このⅠ・Ⅱ・Ⅲの3番目です。それぞれ子どもが身につけて欲しいことと大人が頑張ることというのを分けていますが、共に関わるということも必要だと思いますので、その実現すべき内容をこのⅢの中で含めて記載出来ればと考えています。

<事務局>

それでは、市長、総括的なご意見をいただければと思います。よろしくお願いします。

<永藤市長>

本日は本当にお忙しい中、貴重なお時間をいただきましてありがとうございました。私たちもこの2か月位、教育大綱と教育プランをどのように考えるかというところからを含めて、内部で検討を重ねて、私も色々と子どもたちの顔を思い浮かべながら検討をしてきました。その中でさらに磨かなければいけないところであったり、もしくはこの中では不足しているところ、今日ご指摘いただいたことを考えております。今日いただいたご意見をしっかりと踏まえながらも一度私たちが練り上げまして、次回提示をさせていただきたいと考えております。皆様からいただいたご意見、色々と本当に勉強になるところがございまして、私も思いをお伝えさせていただきました。これからの堺市の教育行政がさらに素晴らしいものとなるように皆さんと力を合わせて頑張っていきたいと思いますので、引き続きどうぞよろしくお願いいたします。本日は本当にありがとうございました。

<事務局>

最後に、今後のスケジュールについて、資料3をご覧ください。11月中下旬に第2回総合教育会議を予定しておりまして、パブリックコメントを12月中旬から1か月間実施します。そして、第2回総合教育会議での議論やパブリックコメントでの意見等を踏まえて案の修正を行い、2月上旬から中旬頃に第3回総合教育会議を開催し、そこで次期堺市教育大綱を決定いたします。決定後は、堺市議会へ報告いたします。

事務局からの説明は以上です。これをもちまして、令和2年度第1回堺市総合教育会議を終了いたします。本日は誠にありがとうございました。

閉会 午後4時30分頃